

ハードウェアの移行の

利点 コスト削減

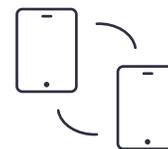


すべてのテクノロジーには賞味期限があり、「誕生日」を迎えるごとにその知覚価値が見直されます。

価値や減価償却の期間は購入したデバイスによって異なります。これは至極当然なことではあるのですが、驚くべきことに、テクノロジーの下取りが遅れることで組織や学校は途方もない価値を失っています。

組織や学校は大概、生徒や教師が休みの夏や年末、あるいはオフィスがあまり忙しくない時期にデバイスの買い替えを行っています。

このタイミングで交換することの問題は、同じタイミングで一斉に学校から売りに出されるため、買取り市場がデバイスで溢れてしまうことです。そして供給が過剰になると需要が減り、デバイスの価値が落ちるということは、経済学を専攻していなくても、誰にでもわかることです。



教育現場におけるAppleのスタンダードであるJamfと、学校や組織におけるApple買取りパートナーのスタンダードであるDiamond Assetsが協力して、次のようなiPadの買取りに関するよくある質問にお答えします。

- 古いデバイスを下取りに出すのに最適な時期は？
- 残存価値が最も高いデバイスはどれ？
- デバイスを交換する際の準備は？
- 新しいデバイスをセットアップするには？
- 将来的なテクノロジーコストをより正確に予測し、財務的に持続可能な方法でテクノロジー投資を最適化するには？

デバイスの買い替え 基本編

大概の組織や学校は年に1度のペースでテクノロジーを評価し、買い替えの時期かどうかを判断しているでしょう。テクノロジーが新しくなると、通常ハードウェアの信頼性、パフォーマンス、およびバッテリー寿命は向上し、サポートとリソースのコストは下がります。

テクノロジーの刷新は常に起こっている

ペンと紙の時代が終焉を迎え、従業員、教師、生徒は、対面、リモートを問わず、仕事や学習環境を強化するために、最新のテクノロジーやソフトウェアへのアクセスに大きく依存しており、

機関や学校は、これまで以上に、すべての生徒や社員に真のデジタルの機会を提供しようと努めています。特に、家庭環境では全員が同じレベルのテクノロジーにアクセスできるわけではなく、中には全くアクセスできない家庭も存在しており、このような状況に対して、学級でのデジタルプログラムは公平な場を作り出し、誰1人取り残さないデジタルエクイティを提供します。





買い替えに最適な時期は？

ここで絶対に押さえておくべき重要なポイントは、テクノロジーの下取りを夏まで待つのは、予算、ユーザー、ITスタッフにとって不利益になるだけだということです。

学校が夏ではなく秋や春にデバイスの買い替えを実施すると、市場がデバイスで溢れかえっている夏に起こる減価償却費の減少や市場の低迷を回避することができます。

テクノロジーの賞味期限の話に戻ると、一般的にデバイスの価値は夏よりも春の方が高くなります。夏前にデバイスを買換えることで、残存価値を高め、その過程で総所有コスト(TCO)を削減できます。

* 柔軟な買取りオプションは、すべてのデバイスが一度に買換えられるわけではないため、IT部門、学習、および仕事への影響を最小限に抑えます。

従来のタイミングで10,000台のiPadデバイスを買換えた場合

| 時期 | iPadの価値 | 残存価値 | 追加の残存価値 |
|-----|---------------|-------------|-------------|
| 5月 | \$110.14/iPad | \$1,101,400 | + \$131,000 |
| 6月 | \$107.38/iPad | \$1,073,800 | + \$103,400 |
| 7月 | \$104.70/iPad | \$1,047,000 | + \$76,600 |
| 8月 | \$102.08/iPad | \$1,020,800 | + \$50,400 |
| 9月 | \$99.53/iPad | \$995,300 | + \$24,900 |
| 10月 | \$97.04/iPad | \$970,400 | — |

iPad10,000台の柔軟な下取りオプション：

4ヶ月にわたって1ヶ月あたり2,500台のiPadを買換えた場合*

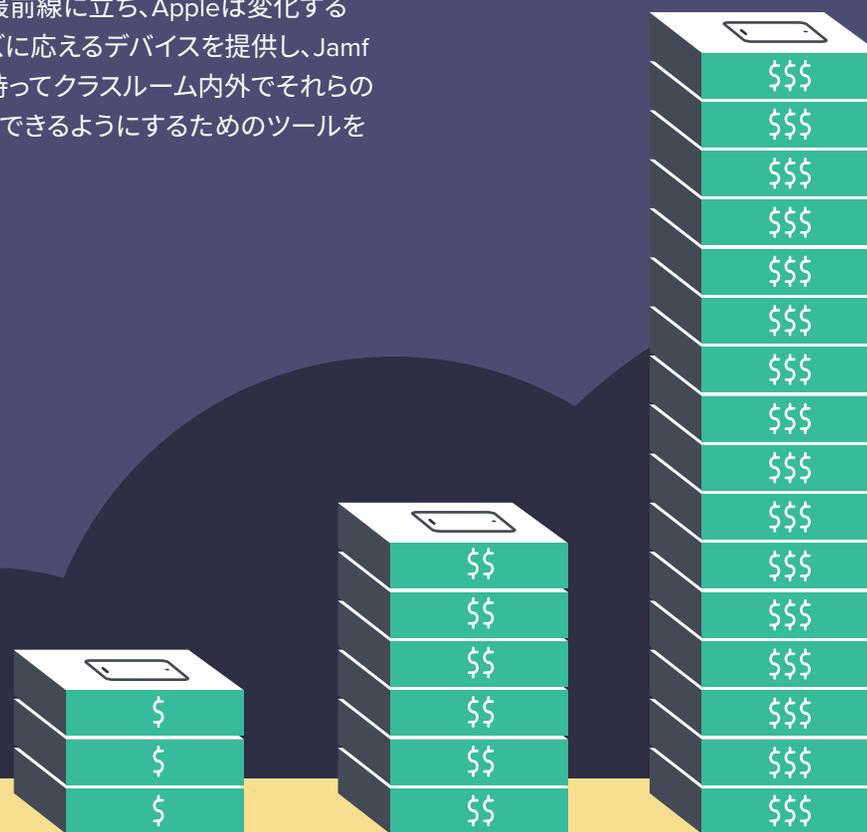
| 買い替えのタイミング | iPadの価値 | 残存価値 | 追加の残存価値 |
|------------|---------------|-----------|------------|
| 6月 | \$107.38/iPad | \$268,450 | + \$54,225 |
| 7月 | \$104.70/iPad | \$261,750 | |
| 8月 | \$102.08/iPad | \$255,200 | |
| 9月 | \$99.53/iPad | \$248,825 | |
| 冬季 | ~\$98.00/iPad | \$980,000 | — |

テクノロジーに関して考慮すべき点

大抵、予算管理担当者は、テクノロジーデバイスへの支出を、予算から「取り崩す」年間の設備投資と考えています。この考え方はコストを節約するために、安価で劣ったテクノロジーを購入したり、使用可能なライフサイクルの全盛期を過ぎたデバイスを使い続けたりするような行動へとつながりかねません。**初期費用でコストを抑えられることは魅力的かもしれませんが、よりよい機材と適切な買い替えのタイミングを選ぶことでデバイスの残存価値が高くなり、学校はデバイスのTCOを最小限に抑えることができます。**

「使えなくなるまで使う」というアプローチが取られると、新しいハードウェアでしか使えない最新の機能やソフトを活用できず、生徒や教師、従業員にとっては好ましくない結果を招きます。さらに、これにより、学校や組織がデバイスの残存価値を活用して、次の新たなテクノロジーの支払いや頭金に充当することもできなくなります。

幼稚園から高校まで、教育機関はテクノロジーコストを正当化するように求めるプレッシャーを一段と強く感じており、コスト節約を短期的な目標にしている学校もあります。しかし、デバイスの購入や買い替えが「教育と学習の改善」という導入の目的に資するものであれば、十分な費用対効果を得られるでしょう。学習環境の最前線に立ち、Appleは変化する教育環境のニーズに応えるデバイスを提供し、Jamfは教員が自信を持ってクラスルーム内外でそれらのツールをフル活用できるようにするためのツールを提供しています。



コスト

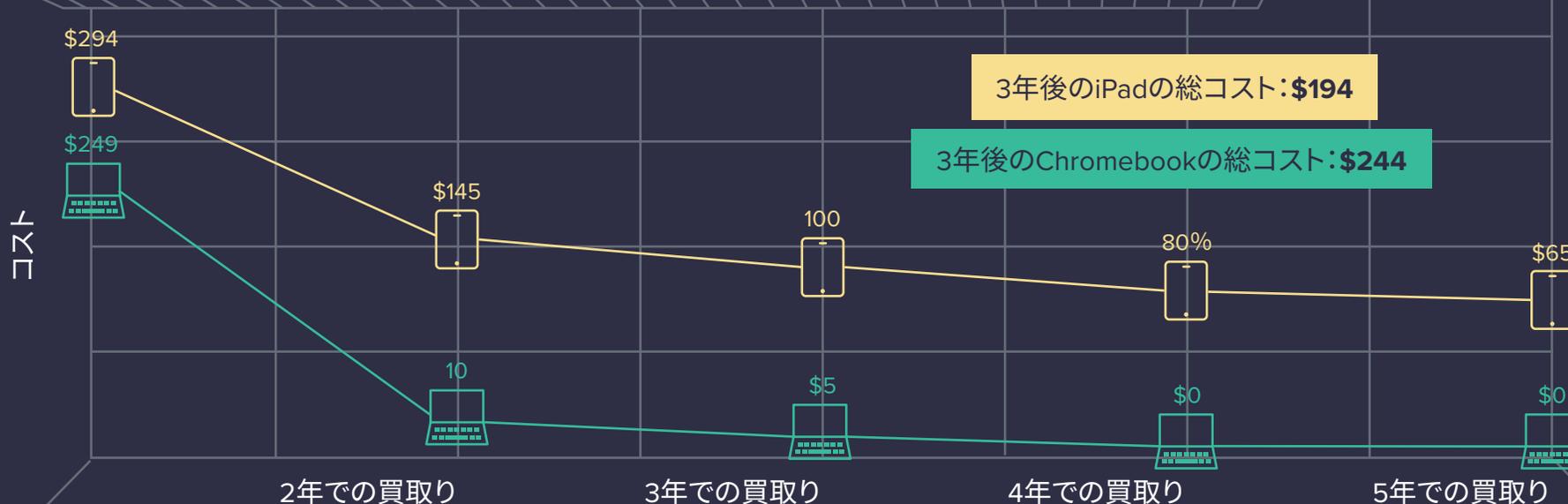
教育テクノロジーの真実

今日の教育現場では、ChromebookとiPadの両方が使われていますが、それぞれの目的が異なることを理解することが重要であり、クラスルームに最も適したテクノロジーを導入するためには、各デバイス固有の利点を認識することが不可欠です。導入の目的が決まれば、費用対効果を評価することができます。

ChromebookはiPadに比べて初期費用が安いように見えますが、総保有コスト(TCO)を分析すると話は変わってきます。

Chromebookは、市場の需要が低く、2年前のChromebookは通常10ドル程度の価値しかキープできません。一方、2年前のiPadは約145ドルの下取り価格を維持しています。今後を考えると、Chromebookはあと2年で減価償却がゼロになるのに対し、iPadはまだ約80ドルの下取り価値が残っていることになります。

TCO(総保有コスト)に関して、iPadは一般的に3年間でChromebookより安くなります。iPadは残存価値が高いため、Chromebookと比較して、学校はより長期的な投資リターンを得ることができ、将来のハードウェア購入に対して大きな価値を提供することができます。



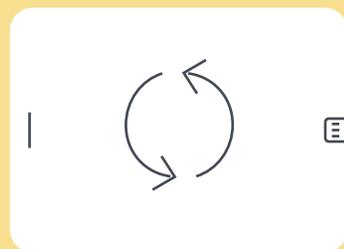
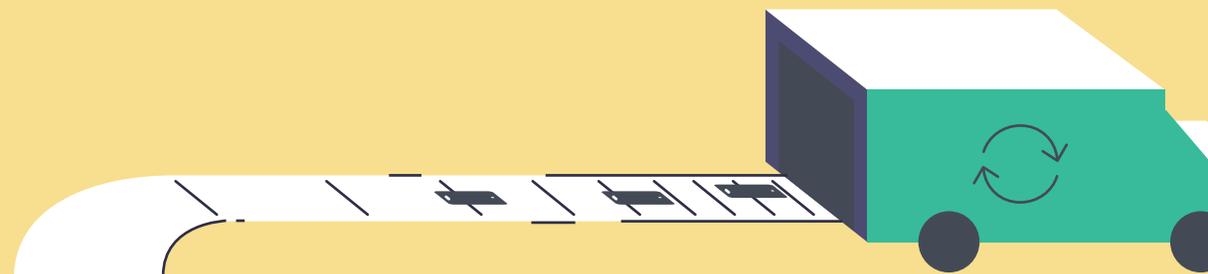
* Diamond Assetsの調査に基づく財務データ

* これらのチャートと価格は、Appleのテクノロジーの買い替えに最適な時期やAppleのテクノロジーが維持する残存価値を示していますが、実際の市場価格を反映していない場合があります。現在の価格については、Diamond Assets (buyback@diamondassets.com) まで直接お問い合わせください。

大量のデバイスを扱う現場では、機材の買取りと4年間のリースオプションを活用することで、テクノロジーへの支出が多い年と少ない年を交互に繰り返すのではなく、年間支出を抑え、年間設備投資額を予測可能なものにします。

予算の予測ができないことは、テクノロジーへの大規模設備投資の妨げとなり、テクノロジーがより頻繁に移行されない主な理由となっています。しかし、学校や企業がテクノロジーを、電気、インターネット接続、水道など、他の必要不可欠な運営費と同じように捉えると、「あるといい」経費ではなく、計画的な経費になります。長期分割払いでは通常4年間のローン期間中、コストが固定されているため、デバイスの予算をより小さく予測可能なものにできます。

指導者はこれらを一通り念頭に置き、Appleはより優れた学習環境を提供していることだけでなく、TCOについても理解し、テクノロジー支出に対するアプローチを再考する必要があります。



古いiPadデバイスの販売方法

中古のデバイスをDiamond Assetsのようなテクノロジー買取り業者に販売することで、組織は次のテクノロジーの購入に資金を充当でき、次世代のハードウェアの総コストを削減できます。

販売のプロセスはシンプルです。買取りパートナーが、お使いのMDMプラットフォームに特化した統合や手順を持っているかを確認してください。そうでない場合は、IT部門は以下の手順に従ってデバイスを再販する準備をしてください。

- MDMソリューションを使用して、Diamond Assetsのようなベンダーに提供するデバイスのシリアル番号のインベントリレポートを実行する
- Apple Business ManagerまたはApple School Managerから登録トークンを削除する
- アクティベーションロックを無効にする
- 生徒のApple IDを削除する（デバイスベースかユーザーベースのアサインかは各校のApple IDモデルによって異なる）
- デバイスをワイプし、工場出荷時の設定にリセットする（生徒データが共有されていないことを確認）

これらはすべて、MDM（モバイルデバイス管理）ソリューションで行い、自動化することができます。組織はMDMを活用して紛失モードをオンにし、iPadの紛失や引き渡しの遅れに気づくことができます。

MDMとは？

MDM（モバイルデバイス管理）とは、iPadなどiPadOSデバイスを管理するためのAppleのフレームワークです。MDMは、学校が新しいデバイスを導入、インベントリを収集、設定を構成、アプリを管理、またはデバイス上のデータをワイプするのに役立ちます。

Apple School Managerとは？

Apple School Managerは、教育に特化した製品で、Appleの導入プログラムを統合します。Apple School Managerは、IT管理者のためのシンプルなウェブベースのポータルで、ユーザ、デバイス、コンテンツのすべてを一元的に管理できます。

アクティベーションロックとは？

アクティベーションロックは、デバイスの盗難を防ぐために設計されたiPadの機能です。アクティベーションロックにより、デバイスにアクセスするにはApple IDとパスワードの両方が必要になります。MDMは、アクティベーションロックの管理を可能にし、IT管理者はアクティベーションロックのバイパスコードを設定してデバイスのロックを解除することができます。

以下の手順に従って、Diamond Assetsが残りの処理を行います。

- デバイス購入の見積もりを学校に提供する
- Jamf Proでデバイスの移行サイクルを追跡するためのClarity CSVを追加する
- Diamond Assetsのスタッフがデバイスのインベントリ、梱包、輸送を行う日程を調整する
- デバイスの照合レポートを作成する
- 古いハードウェアの代金を支払う

その後、学校はAppleと直接連携して、新しいテクノロジーのデバイスを購入できます。



Diamond Assetsとは？

- 学校と直接連携して効果的かつ効率的なデバイス移行プランを設計してきた長年の経験を持つ、信頼できるAppleのハードウェア買取りパートナーです
- Appleの買取りに特化したDiamond Assetsは、学校がAppleデバイスの残存価値を最大化できるように支援します
- お客様を財務安定のサイクルに導くためのコーチングを提供します
- 50州すべてでサービスを提供する全国的なサービスプロバイダーです。

Diamond AssetsとJamfの提携によるClarityが、どのようにデバイス移行データへのアクセスを容易にしているかご覧ください。

今すぐ読む

新しいデバイスのセットアップ方法

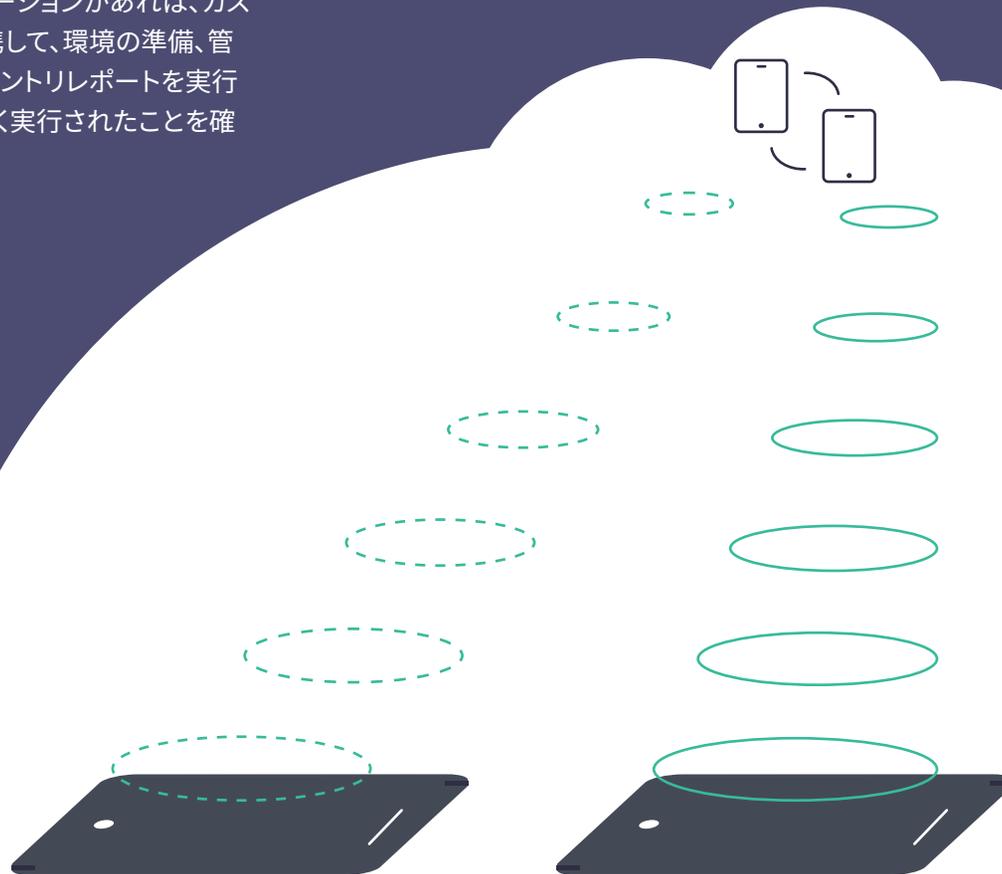
買取り資金をテクノロジーに充当することで、新しいiPadデバイスをより低価格で購入したら、次はデバイスのセットアップを実施するチームを決定することが重要です。このチームは、セットアッププランを策定し、ロジスティクス、従業員のキャパシティおよびエンドユーザーについて考慮する必要があります。

大体のセットアップと導入プロセスはMDMツールを使って再度自動化できます。**Jamf Pro**や**Jamf School**のようなMDMソリューションがあれば、カスタマーサポートチームと連携して、環境の準備、管理へのデバイス登録、インベントリレポートを実行することで、すべてが問題なく実行されたことを確認できます。

Jamfの高度なソリューションは、以下のプロセスを効率化することで移行の課題を解決します：

- 管理の煩雑さを解消
- エンドユーザーへの影響を最小化
- 移行ワークフローの自動化

モバイルデバイス管理を担当するベンダーの**サポートチーム**に相談して、お使いの環境に最適な方法を選択してください。



iPad下取りを成功に導く計画と手順

学校や組織は、将来に向けた持続可能な計画を策定し、固定費をより予測可能にするために、テクノロジーを資本支出ではなく運用コストとして扱う必要があります。Diamond Assetsのようなパートナーは、お客様のニーズに合った持続可能な計画の策定を支援します。

計画を立てることで、どのような予算が適切か、そして従業員、生徒、または教師が目標を達成できるように、どのタイミングで最新のテクノロジーを導入するか知識に基づいた決定を下すことができます。

Apple School ManagerなどのApple導入プログラムが進歩し、MDM機能が向上したことで買い替えと導入はこれまで以上に管理しやすくなっています。

Jamf、Diamond Assets、Appleのスピーディーな実施により、タイミングに関係なく、デバイスの入れ替えが学習や仕事にほとんど、またはまったく影響を与えないようにすることができます。

iPadの移行戦略と適切なAppleの管理ソリューションがあれば、学校や組織はシームレスな移行を自信を持って行うことができます。そうすれば、IT責任者は安心を得られ、予算やユーザーの観点からも恩恵を受けられます。

